

Ⅲ 千葉県環境学習基本方針～環境のために主体的に行動する人づくり～

1 基本方針策定の経緯

県では、全国的にも早く平成4年3月に「千葉県環境学習基本方針」を定めて、県民が自主的に学習活動を実践していくことを目標に、指導者の育成など総合的な取組を進めてきました。

こうした中、環境問題は身近な都市・生活型から地球温暖化や生物多様性の危機など地球規模の問題にまで複雑多様化し、環境学習を取り巻く状況が大きく変化していることから、地球温暖化防止、生物多様性の保全等、持続可能な社会づくりのための新しい「千葉県環境学習基本方針」を19年9月に策定しました。



策定に当たっては、千葉県環境づくりタウンミーティングで環境学習に関するタウンミーティングを主催した方々を中心に、「環境学習基本方針をつくろう会」が組織され、その作業部会およびネットワーク会議準備会のもとで県民参画による方針の素案づくりが行われました。

また、「つくろう会」の主催で、パブリックコメントの開催に合わせた説明会が開催されるなど、この基本方針は「千葉方式」で策定された計画のひとつといえます。



計画の推進にあたっては、県民、学校、事業者、行政など環境学習に取り組む各主体による連携・協働した環境学習を推進することが重要であることから、多様な主体で構成する「ちば環境学習ネットワーク会議」を設置し、環境学習の推進に努めていきます。

2 基本方針の概要

(1) 基本方針がめざすもの

持続可能な社会づくりに向けて、豊かな感受性を育み、問題解決力を身につけ、主体的に行動できる人づくり

(2) 推進にあたっての視点

次の6つの視点に立って環境学習を推進します。

- ① みんなが連携・協働し地域社会全体で取り組む
- ② 地球温暖化防止に取り組む
- ③ 生物多様性の保全に取り組む
- ④ 生涯にわたる学習活動として取り組む
- ⑤ 地域の環境保全活動から学ぶ
- ⑥ 環境問題を多面的・総合的にとらえる

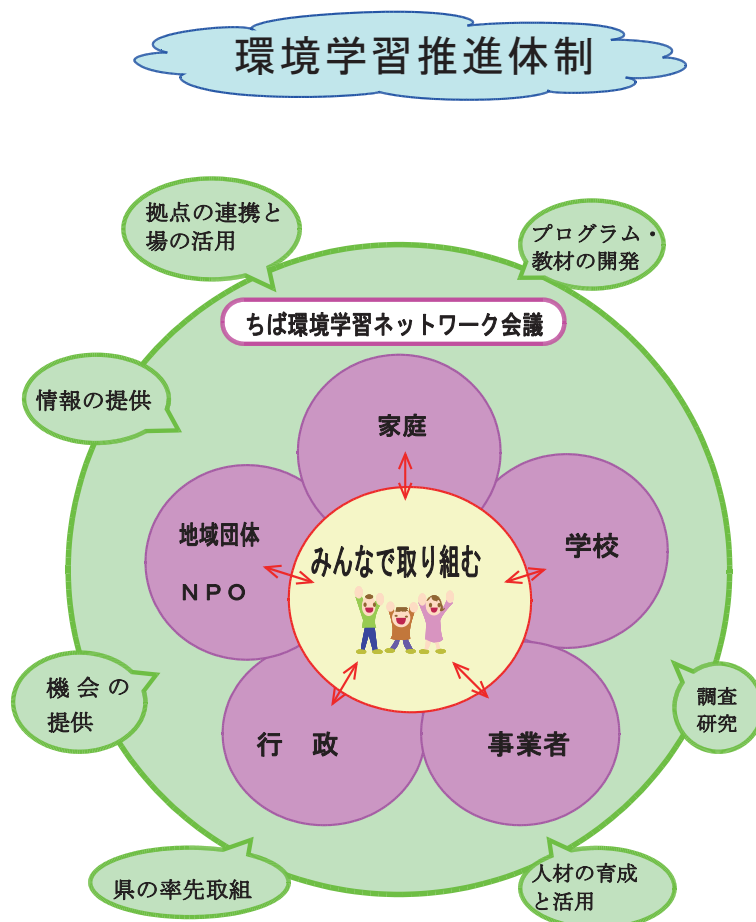
(3) 推進体制の強化

県民・学校・事業者・行政など環境学習に取り組む各主体による連携・協働した環境学習を推進するため、多様な主体で構成する「ちば環境学習ネットワーク会議」を新たに設置しました。

○ネットワーク会議の役割

環境学習の情報収集や情報共有のためのシステムづくりなどについて検討し、実施計画案を策定します。

さらに、計画の進捗状況等を点検・評価し、必要な対策または見直しのための提言を行い、持続的に改善を図ります。



IV 千葉県廃棄物処理計画（第7次） ～3Rと適正処理の推進～

「廃棄物の減量化・リサイクルと適正処理を推進し、ものを大切にする」資源循環型社会を築くため、平成20年9月に策定された千葉県の廃棄物政策の新たな指針となる計画です。

1 「千葉方式」による計画づくり ～計画の策定経緯～

- ① 計画の策定については、「白紙の段階から県民の方々に参画いただく」ことを特徴とした「千葉方式」により進めてきました。
- ② 計画の策定に先立ち、18年度に県民の方々が自ら企画運営する実行委員会方式により、タウンミーティングが県内5会場で開催されました。さらに、20年度には、「みんなで取り組む3Rの推進に向けて」を主なテーマに、NPO団体、学生等の協力を得て、県内9会場で開催されました。
- ③ タウンミーティングで多くの方々からご意見、ご提案をいただきながら、計画案をとりまとめ、さらには8月に実施したパブリックコメントでのご意見などを踏まえて、計画を策定しました。



タウンミーティングの様子

2 大量廃棄型社会がもたらしたもの ～計画の背景～

- ① 私たちは、大量生産、大量消費により物質的に豊かになる一方で、大量廃棄の社会も築いてしまいました。
- ② それに伴い、廃棄物の発生量の増加と質の多様化による廃棄物処理の問題を引き起こし、さらに天然資源の枯渇や自然環境の破壊、地球温暖化等を招き、地球環境は危機的な状況になっています。
- ③ 一方、本県は、首都圏の一翼として急速に発展しましたが、現在に至るまでの短い間に、県土は大きく変わり、また、人口の増加と経済活動の急激な拡大は、大気汚染や河川・湖沼の汚濁、廃棄物の増加など、数多くの環境問題をもたらしてきました。
- ④ このような中、本県における廃棄物処理の現状をみると、
 - (ア) 一般廃棄物については、リサイクル率は全国でも有数のレベルに位置していますが、県民一人1日当たりのごみの排出量は、依然として横ばいの状態となっています。また、不要となった家庭電化製品の不法投棄や、道路脇などへのごみのポイ捨て等、不適正な処理についても課題があります。

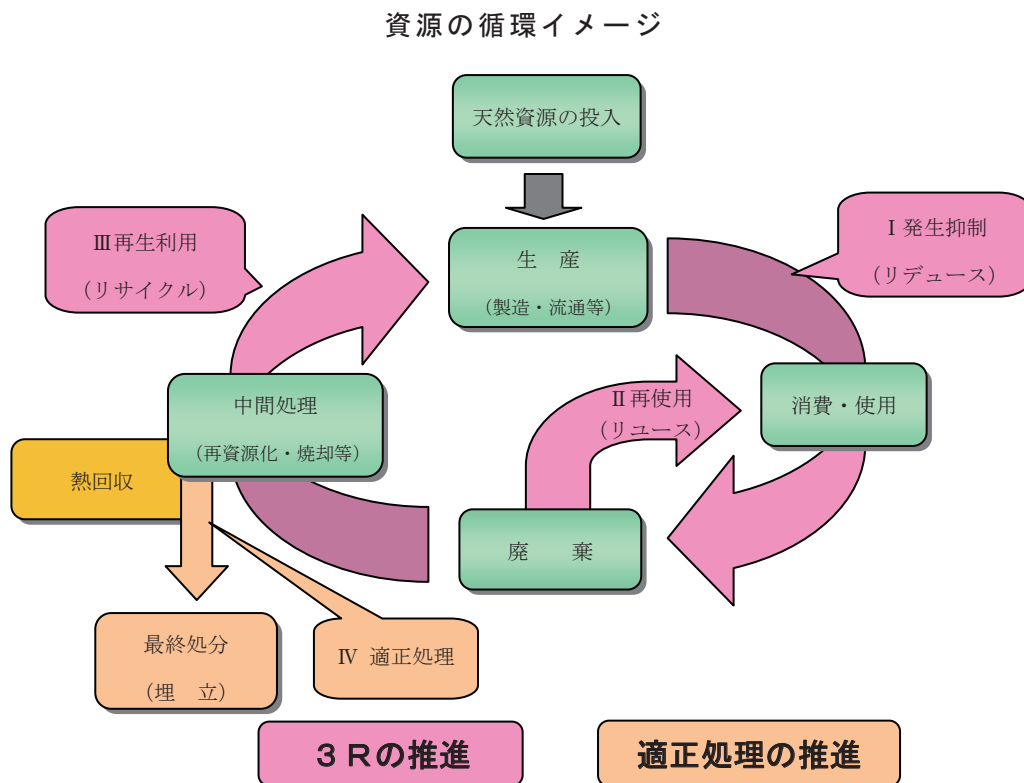
(イ) 産業廃棄物については、排出量の減少や再資源化率の向上が図られるとともに、不法投棄についても監視体制の強化などにより年々減少してきていますが、今後は景気の動向や建築物の更新などによる排出量の増加も予想され、それに伴う不法投棄の増加や、将来に向けての*最終処分場残余容量の確保など様々な課題があります。



大規模な不法投棄の様子

3 持続可能な発展を遂げていくための3Rと適正処理の推進～計画の策定方針～

- ① 今後、私たちが持続可能な発展を遂げていくためには、この大量廃棄型社会から脱却するとともに、有限な資源を効率的に利用する資源循環型社会の構築を目指していくことが必要となります。
- ② そのためには、廃棄物の発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）の順に、できる限り循環的な利用を行う、いわゆる「3R」に努めるとともに、それでも発生する廃棄物については、適正に処理していかななくてはなりません。
- ③ 本計画は、資源循環型社会を「廃棄物の減量化・リサイクルと適正処理を推進し、ものを大切にする社会」と位置付け、それを築くために「3Rの推進」と「適正処理の推進」を2本の柱に据え、それぞれ展開すべき具体的な施策を定めています。



4 資源循環型社会の実現に向けて ～減量化・再資源化等の目標値～

この計画の目標年度としている 22 年度までの目標値は以下のとおりです。

(1) 一般廃棄物

排出量を 223 万 t 以下、一人 1 日当たりのごみの排出量を 1,000 g 以下（対 17 年度比、約 10%の削減）とすることを目指しています。

また、再資源化率については、35%以上（対 17 年度比、約 10%の向上）を、最終処分量については、15 万 t 以下（対 17 年度比、約 20%の削減）とすることを目標としています。

【一般廃棄物】		現状 (H17)	目標値 (H22)
排出量	量 (万 t / 年)	2 4 8	2 2 3
一人 1 日当たり のごみの排出量	量 (g)	1, 1 2 6	1, 0 0 0
再資源化	量 (万 t / 年)	6 0	7 8
	率 (%)	2 4. 3	3 5
最終処分	量 (万 t / 年)	1 9. 2	1 5

(2) 産業廃棄物

排出量を 2,400 万 t 以下（対 17 年度比、約 4%の削減）とすることを目指しています。

また、再資源化率については、61%以上（対 17 年度比、約 1%の向上）を、最終処分量については、62 万 t 以下（対 17 年度比、約 8%の削減）とすることを目標としています。

【産業廃棄物】		現状 (H17)	目標値 (H22)
排出量	量 (万 t / 年)	2, 4 9 3	2, 4 0 0
再資源化	量 (万 t / 年)	1, 4 9 7	1, 4 6 4
	率 (%)	6 0. 0	6 1. 0
最終処分	量 (万 t / 年)	6 7	6 2

5 目標の達成に向けた具体的施策 ～32 の施策の展開～

計画では、「3 R の推進」と「適正処理の推進」について 32 の具体的な施策を定め、目標の達成に向けて積極的に展開することとしています。

(1) 3 R の推進

① 資源循環を推進するためのライフスタイルづくり ～ごみ減量化に向けた県民一人ひとりの取組～

- ・「レジ袋削減！」エコライフへの転換の推進
- ・「ちばのうまい食材食べきり運動」（仮称）の展開

- ・ごみ処理有料化の促進
 - ・容器包装廃棄物等の完全分別の徹底
- など、6 施策

② 資源循環の基盤となる産業づくり

～無駄なく循環する再資源化システムの構築～

- ・焼却灰を活用した*溶融スラグ・*エコセメントの利用の促進
- ・建設汚泥の工事間利用の促進
- ・鉄鋼スラグなどの安定した利用の促進
- ・*バイオマス利活用の推進

など、8 施策

③ 地域特性を生かした資源循環ネットワークづくり

～各主体との連携・協働による取組～

- ・廃棄物の再利用に関する情報ネットワークの構築
- ・各主体（県民・NPO、事業者、行政等）の相互連携の推進

(2) 適正処理の推進

① 廃棄物の不法投棄・不適正処理の根絶

～不法投棄ゼロを目指して～

- ・環境美化意識の向上と実践活動の推進
- ・廃家電等の処理費用負担に対する意識向上の推進
- ・産業廃棄物の不法投棄監視体制の徹底と不法投棄廃棄物の支障除去対策の実施

② 廃棄物の適正処理の確保

～適正処理に向けた体制づくり～

【一般廃棄物】

- ・広域化・集約化による一般廃棄物処理施設整備の促進
- ・災害廃棄物処理体制の整備
- ・し尿処理汚泥の再資源化の促進と施設の適正な維持管理

【産業廃棄物】

- ・排出事業者、処理業者の指導強化と優良な事業者の育成
 - ・産業廃棄物管理票（マニフェスト）の電子化の推進
 - ・建設廃棄物の発生から処分までの一元的管理の推進
 - ・*PCB 廃棄物処理計画に基づく PCB 廃棄物の適正処理
- など、6 施策

③ 産業廃棄物に係る総合的施策の推進

～適正処理を推進するための仕組みづくり～

- ・産業廃棄物処理施設の適正かつ円滑な立地についての方向性の検討
- ・産業廃棄物の処理に関する公的関与のあり方の検討
- ・産業廃棄物の広域移動の実態把握と対策の検討
- ・産業廃棄物に関するコミュニケーションづくり



第1回シンポジウム

テーマ：

知ろう、考えよう！

私たちの生活と産業廃棄物！

20 年 12 月 23 日開催